貝塚市立第五中学校
道　徳　通　信

若竹

平成22年3月24日
第　3　号

☆　「霜除葉（しもよけば）」の精神を大切に

皆さんは、厳しい冬の寒さの中で、寒椿が見事な紅の花を咲かせているのを見たことがあるでしょう。なぜ、この寒さの中であんな素晴らしい花が咲くのでしょうか？ 実は、椿には美しい花を咲かせるための秘密があったのです。

それは、蕾がつくと、その上に一枚の葉がまるで蕾にかぶさるような形になるということです。この葉は蕾を霜から守るためのもので、「霜除葉」と言います。このように自然は、そして椿は素晴らしい知恵で蕾を守り、美しい花を咲かせる工夫と努力をしているのです。

今、これを皆さんに当てはめて考えてみましょう。 皆さんは これからの中学校生活やその先の人生において、きっと美しい花を咲かせ、大きな実を実らせることでしょう。しかし それには、どこかで「霜除葉」に当たるような行いが必要でしょう。

ここで、一人一人が自らの力で成長する場面を考えてみますと、人生の大きな山や谷を越えて行くには、人知れずの努力と苦労が やはり必要です。そしてまた、だからこそ その結果咲いた花は、たとえ小さくとも美しいのです。

次に、周りの人と共に成長していく場面を考えてみましょう。すると、温かい目で見渡しさえすれば、あなたのすぐ傍らに、悲しんでいる人、悩んでいる人がいることに気付きます。それは、あなたの級友かも知れませんし、家族であるかも知れません。あるいは、障害のある人かも知れませんし、道端で困っている見ず知らずの人かも知れません。いずれにしても、そんな時、あなたにそういった人たちの「霜除葉」になってほしいと思うのです。一言声をかけ、手を差しのべるだけで、それがどれだけ大きな支えとなることでしょうか。

このように、自分自身の命を輝かせるとともに、周囲の人々とも輝き合って、心の豊かさや温かさ・清々しさを感じながら共に生きていくため、ぜひ４月から、「霜除葉」の精神をより一層深く意識して、新たな一歩を踏み出してほしいと希います。二度と繰り返すことのない日々を大切にしながら……。

☆ 道徳の記念授業について

３学期は、各学年で記念授業をしました。校長先生は３年生で「ぼくの名前呼んで」を、教頭先生は２年生で「さよなら、ホストファミリー」を、そして教務の下中先生は１年生に“下中先生自身の生き様”を話され、これらを通して、皆さんは人生を生き抜く重要な感性や判断力を磨きました。

校長先生は、授業での質問をあらかじめ短冊に書いてアクセントにし、分かりやすく黒板にまとめてくれました。悔しく悲しい思いをした少年がまばたきもせずに父の手話を見つめている場面では、「後悔の念」「父さんの本音を知ることができた」「感動した」「真剣さ」等の意見が出され、さらに、それらの意見を追求することで「“本音”とは、耳の聞こえないことを恥ずかしいとは思わないことである」「“感動”とは、自分のことをこんなにも大切に考えてくれていることや父の力強さに対するものである」といった深みのある発言も出て、記念授業にふさわしい中身の濃い印象的な授業となりました。

教頭先生は、何枚もの場面絵や写真を要所に配置し、視覚的に理解しやすい黒板づくりとともに、習慣や考え方に関する諸外国との違いを説得力のある語り口で進めてくれました。授業の山場では、主人公が日本人としての自覚を持つようになったきっかけを話し合い、「日本のことを語れない恥ずかしさ」「良さを知らない恥ずかしさ」などの考えが出ましたね。そして、相撲や五重塔、富士山、食文化などを改めて見つめ返すことで、自国を大切に考え 誇りを持つことの素晴らしさを考える機会としたのでした。ニューヨークの日本人学校を経験されている教頭先生から、貴重な学習の場をもらいましたね。

下中先生は、介護の経験から感じたこと・考えたことを何一つ包み隠さずに、その魂の声を熱く１年生にぶつけてくれました。誰もが下中先生の一言一言に息を呑みつつ、時に 今まで考えもしなかった新しい切り口からの訴えに深く考えさせられ、時には 想像を絶する先生の苦労と それに挫けそうになりながらも乗り越えようとしている姿に涙しましたね。その後、皆さんには感想を書いてもらいましたが、生きていく上で重要な見方や考え方を、本当に様々な視点から学んでいました。この貴重な感動体験を糧にして、背筋を伸ばして胸を張りつつ、人生行路を力一杯歩んでいってほしいものです。

この他にも、子ども支援コーディネーターの山下先生には、年間を通じて全学級で道徳授業を行ってもらいましたし、副担任の先生による授業も毎月行われました。来年度も、五中のすべての先生が心と力を一つにして、道徳の授業を進めていきますから、ぜひ楽しみにしていてほしいと思います。